

ディプロマポリシー(DP) 記号一覧表

カリキュラム表内にある「DP」と記載された列には、各授業科目とDPとの関係を下記の記号で表しています。

記号	項目	説明
A	農学俯瞰力	農学獣医学に関する幅広い知識や技術に基づく思考や判断ができる。
B	データ運用力	数理・データサイエンス・AIに関する応用基礎レベルのデータ運用ができる。
動C	動植物生産活用力	動植物の生産や農業に関する専門知識と技能を有し、持続可能な食料供給に活用できる。
動D	動植物生態・環境活用力	動植物の生態や環境に関する専門知識と技能を有し、環境の保全と調和に活用できる。
動E	動植物生命・食品活用力	動植物資源の生命現象や食品分野への応用に関する専門知識と技能を有し、健康で豊かな暮らしの実現に活用できる。
森C	環境持続性基礎・応用力	森林・緑地および関連する生物・非生物材料、国土保全、水資源利用に関する広い知識を修得し、持続可能な社会の実現に応用することができる。
森D	環境持続性解決力	里地・里山で生じている国内および国際的な諸問題に対して、具体的な課題を見つけ出し、その解決方法を提案できる。
森E	環境持続性実践力	生産と保全を調和させた持続可能な地域社会を実現するために、様々な関係者とコミュニケーションをとり協働して対策を実践することができる。
海C	理解力	海洋生命科学に関する基礎知識：海洋生命に関わる様々な現象を理解する上で必要な生物と化学の基礎知識を理解し専門分野に応用できる。
海D	応用力	海洋生命科学に関する専門知識：生態環境学、増養殖学、応用生理病理学、生物資源化学の各領域に関する専門知識を理解し、それを問題解決に応用できる。
海E	実行力	専門分野で修得した知識を地域社会や国際社会で活躍できる能力：専門分野で修得した知識・技術を活用し、地域社会や国際社会で海洋に関わる諸問題を他と協力し解決できる。
応C	基礎理解力	生命化学に関する基礎知識：生命現象を理解する上で必要な化学と生物の知識を深化させることができる。
応D	応用力	応用生命化学に関する知識：応用生物化学、食品化学、生物工学の各領域に関する基礎および専門知識を理解し、それを問題解決に応用できる。
応E	実践力	あらゆる状況下で計画的に仕事を進め、まとめる力：応用生命化学に関する課題解決のための筋道をデザインし、自立して仕事を計画的に進め、期限内に終わることができる。
獣C	理解力・判断力	動物福祉について基本的な精神と概念を身に付けるとともにグローバルな基準と動物福祉に関する諸問題を理解し、説明できる。
獣D	応用力・行動力	動物組織の構造や機能、病態・疾患、感染症、公衆衛生、診断・治療・予防など、獣医師に必要な専門知識と、健全な倫理観を身につけ、健全な倫理観をもって行動できる。
獣E	課題設定力・洞察力・論理的思考力・共感力・表現力	獣医師の社会的役割を理解し、それを実践するための基本的技能、洞察力、課題探求力、論理的思考力、協調性、計画性、コミュニケーション力を身につけ、行動できる。
獣F	発信力・実践力	One Healthの概念を理解し、地球規模の視点に立ってそれを普及・啓発するための知識、技能、行動力、情報発信力を身につけ、実践できる。
獣G	探求力・創造力	国際的あるいは先端的な研究の意義を理解し、自らの強い探究心と行動力によって獣医学の発展や、新しい社会的価値の創出に貢献できる。

アクティブラーニング(AL) 番号一覧表

カリキュラム表内にある「AL」と記載された列には、各授業科目がどのようなアクティブラーニングを取り入れているかを下記の番号で表しています。なお、記載されたアクティブラーニングは、毎回の授業に取り入れられているものに限らず、一部の授業のみに取り入れられているものも含まれます。

また、アクティブラーニングの種類や方法は、今後の見直しなどにより、変更されることがあります。

番号	方法
1	少人数(10人程度)
2	双方向(対話・討論)
3	グループワーク
4	フィールド型
5	メディア活用
6	TA活用
7	チームワーク、コミュニケーション能力もしくは課題発見・解決力の育成
8	演習、実験、実習もしくは実技